

# 児童発達支援ガイドラインの自己評価の実施報告

施設名： あきやまケアルーム

対象者：事業者職員・保護者

調査機関：令和5年5月15日～令和5年6月17日

公表日：令和5年7月10日

公表方法：ホームページ及び掲示

報告日：令和5年7月10日

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年 7月 10日

事業所名 あきやまケアルーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	0		
	2	職員の配置数は適切である	28	43	適正配置が一番大変なところでもある。現在は非常勤の職員の当日の出勤と控勤依頼により対応している。	食事介助時の人員不足を感じる。活動の幅を広げるための保育士が欲しい。保育室の合同保育に参加する時、完全にケアルームの職員1名は移動してしまい、単純にケアルーム登園人数と職員人数で換算すると実質の職員不足となる。逆に利用者様の健康通院などの事情により、欠席することもあり、職員余剰が出る事もある。適正配置が一番大変なところでもある。今後については他施設などの工夫事例もリサーチする必要があると考えている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	57	43		自由に動ける医ケア児と重心の児との併用の中で、物品の置き場について危険を感じることもある。動きの異なるお子さんたちのお預かりの場面では、仕切りなどが無い空間の中での場所感がつかみにくそう。取り外しが容易な仕切りなども考える必要がある。またお知らせやホワイトボードなどの掲示を整理して、保護者様に情報が伝わりやすくするようにしたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100	0		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	71	0		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	71	0		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	71	0		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	86	0	保護者様に対する研修が保育室とケアルーム全体で年3回設けられて、閉室日の土曜日に行われることが多く職員は参加している。	医ケア児や障がい児向けの研修は平日午後など職員配置的には目いっぱいの中で行われており、ウェブなどでも参加しづらい。オンデマンドなどがあれば利用したい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100	0		
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	28	28	お子さんの発達特性が一律ではないので、当てはまらない事も多く、個別に対応している。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	86	0		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100	0		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	86	0		
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	86	0		
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	86	0	職員同士、子どもの状態を共有することに努め、共通認識の中、作成に努めている。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	71	14	日々登園できる児が一定ではない中で出勤職員の割り振りをリーダーを中心に行っている	役割分担できるほどのスタッフ人数がいない。登園児童とスタッフが少数の時には一人で全ての役割を行うことがある。どんなに少ない登園児童数で対応スタッフが1人の時にも事務や外部対応のスタッフは配置するよう努力したい。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	71	28	常勤者が少ないため日誌や申し送りノートで情報はこまめに共有し、顔を合わせた時にはできるだけ口頭でも確認し合うようにしている。	ケアルーム閉室後は職員が他の業務を行う必要があり、ケアルームの事だけを振り返ったりする時間が確保されていない。小規模のため職員が集まってミーティングなどの業務はしづらいが共有ノートを最大限活用している。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	86	0	保育日誌を日々確認し、記載漏れに注意を払っている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	86	0			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	57	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	57	14		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	71	0	卒園児には就学支援シートなどを作成している。また地域の教育委員会などの問い合わせへの対応などを行っている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	71	14	保護者からの情報があいまいな時には直接主治医などに連絡を取っている。	保護者仲介の情報がまだ多い。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	71	0	保育室との合同保育、地域保育園との並行保育、進学先への医療ケア情報などの提供を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	71	0	就学支援シート作成し情報共有をしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	43	14		平日の研修が多く、人員配置に余裕がないので研修日を取りづらい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	86	0	保育室との交流はプログラムされている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	43	14		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	86	0	日々、登園時、降園時にお子さんの状況の情報共有を行うようにして認識の共有を図っている。	伝える努力はしているが保護者様のご意見と一致しない場合もあり、必ずしも共通理解のレベルにならないこともある。不定期の個人面談を設定することも今後の検討事項としたい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	43	28	保育室との合同の保護者会、ペアレントトレーニング、パパママ講座、ケアルームのみの保護者会を行っている。	隣接保育室との合同の保護者会などにはなかなか積極的な参加を得られていない。保護者の積極的な交流がお子さんの交流の土台になる事を伝えていき参加を促したいと考えている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	86	0		
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	86	0		
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	86	0		
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	86	0		
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100	0		
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	86	0		
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	71	14		
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	86	0		
40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	14	43			
非常	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	86	0		
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	86	0		
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	86	0		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
時 等 の 対 応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	86	0		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	43	14	都度、アクシデント報告やインシデント報告を作成し、共有し、再発には努めている。	今後アクシデント報告などをまとめてヒヤリハット集を作成する予定。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	43	28	個々の事例に対して職員間で確認し合っている。また事後にも確認できるように常に監視モニターが設営されている。	職員研修会としては設定しておらず、今後検討したい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	43	28	社会事例を常にチェックするように努め、月1回のケアミーティングや業務中などに確認を取り合っている。	組織的な決定や個別支援計画の面談の際にもお伝えできるよう今後マニュアル化を検討している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

## 2023年度 保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

事業所名 あきやまケアルーム

保護者等数(児童数) 6名 回収数 6名 割合 100 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	5	1	0	0		
	2 職員の配置数や専門性は適切である	6	0	0	0	医療ケアを行える職員を増やすための実施研修をして良い	今後もサービスを提供できるような職員配置を工夫していく
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	0	0	靴箱や靴下入れの名前の場所がもう少しわかりやすいと良い	靴や靴下入れなど小物の管理の工夫を話し合って改善していく
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	0	0	換気や床暖がついていて良い	引き続きお子さんたちの体調管理に必要な工夫を行う
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	6	0	0	0		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0	0	1	計画作成前に保護者の想いや子どもの課題などの聞き取りがあるとなおよい	朝の受け入れなどの時の会話から内容を少しづつお聞きして作成していることが多いので、今後はもう少し個別面談を設けられるようにスタッフの勤務体制などを考える。ガイドラインの要約を記載したものを用意するようにする。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	0	0		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	5	1	0	0	季節の制作物や、室内室外遊び等様々な工夫がある。ケアルーム内のイベントがあると嬉しい。(保育室合同の登山は難しい)	保育室合同の親子イベントがお子様やご家族によってはハードルの高いものであることを踏まえ、今後考慮していく。ただしケアルーム独自の行事でなくとも積極的に参加できるような普段からの環境づくりをしていきたい
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	1	0	0	並行保育で普段経験できない素晴らしい経験が出来ているので是非続けて欲しい	当施設の特徴でもあり、施設管理責任者と市との事業をご理解いただけているのが嬉しい。
	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	6	0	0	0		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	4	0	1	1	面談で支援計画内容をすり合わせる事が出来たのは良い	お互い年間目標をしっかりと明確にして進むことが大事と思い年度開始前に支援計画の面談を行ったことがご理解いただけて嬉しい。

	チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
適切な支援の提供	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われている	3	0	0	3		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	6	0	0	0		
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	5	1	0	0	吸入器の導入など適切なタイミングでアドバイスをもらえて感謝	
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	4	1	0	1	ケアルーム単体の保護者会が開催されているか知らない	年間行事予定表をプリントしてお渡しするようにしたい。現在配信アプリ「プブノート」の4月の園だよりに掲載していることをお伝えしていく。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	6	0	0	0	配布物のお便りがなくなって残念。アプリでお便りを見る事ができるようになって便利。	配布物のお便りを配信アプリ化したことがしっかりと伝わっていなかったようなので、周知を心掛けたい。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	6	0	0	0		
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	3	2	0	1	避難時の対応や災害時のマニュアルを確認しておきたい。	避難訓練の具体的なプリントは行事ごとにはお配りしておらず、契約書のみしか記載されていないため、個別にお知らせするように努力したい。
19 個人情報の取扱いに十分注意されている	5	0	0	1			
非常時等の対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	3	0	1	2		各マニュアルがわかるように記載された用紙を作ることを検討。また避難訓練実施が登園時のノート記載以外に連絡することを検討。
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	3	0	0	3		
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしている	6	0	0	0	お友だちの名前を言うとき声を出して反応するのでケアルームに行くことを楽しみにしている。	子どもの笑顔をこれからも引き出していきたい。楽しみに通えるような活動をこれからもしていく。
	23 事業所の支援に満足している	6	0	0	0	送迎を開始するなど利やすいようにどんどん工夫する姿勢に満足	貴重なご意見と保護者様の理解に感謝しつつこれからも工夫を続けたい。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。